

**悲劇に隠されている摂理****ルカ23:33~43 / 李正雨師**

今日は永遠の王キリストの日です。この日が決まった1925年は、第一次世界大戦が終わった後でした。戦争によって多くの国々は貧困になり、国家主義が蔓延しました。そのため、国家間の競争を越え、互いに敵対したり、差別したりすることが起こりました。ドイツ人はドイツ人同士、ロシア人はロシア人同士、イタリア人はイタリア人同士で団結しました。血統と出身によって差別し、互いを敵として思い、極端的な人種差別を行いました。それほど、戦争がもたらした世界は冷たかったのです。このような状況から生まれた日が永遠の王キリストの日です。永遠の王キリストの日は、私たちみんなの王はキリストであり、私たちみんなはキリストの民であるという意味を持っています。キリストの民の中では、敵対して差別することはなく、国家主義、全体主義などありません。皆が平等で、皆が平和の王に従う民なのです。カトリック教会は、極端な民族主義と差別を越えるという意味においてこの日を制定し、他のプロテスタント教会も一緒に参加しました。そして私たちルーテル教会もこの精神に従い、今日を永遠の王キリスト主日として守っています。

しかし残念なのは、多くの教会がこの日を支持して、平和と平等を語っていましたが、何年もしないうちに、第二次世界大戦が起きたということです。そして今までも、多くの国では戦争と迫害が起きています。さらに、宗教の教えによって起こった戦争もありますね。果たして私たち人間は、神様を神様として崇め、従っているのでしょうか。神様の御名を借りて、私たちの欲を満たしているのではないかと、深く考えてみなければなりません。永遠の王キリスト主日である今日、私たちに与えられた福音書は、イエス様の十字架の場面です。この福音書を通して、十字架につけられた王がこの世に何を教えておられるかを悟る私たちになりますように願います。今日の福音書33節の言葉です。「『されこうべ』と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。」

イエス様に反対した人たちは結局、イエス様を十字架につけます。大祭司長を中心とした宗教指導者たちは、ヘロデとピラトを圧迫します。彼らは騒ぎが起きることを防ぐためにイエス様を犠牲にします。そして、イエス様だけでなく犯罪人2人も、一緒に引かれて十字架につけられます。イエス様と犯罪人が一緒に処刑されるようになったのです。なぜイエス様は、犯罪者たちと共に十字架磔刑を受けるようになったのでしょうか。これについていくつかの仮説を立てることができると思います。まず、イエス様の処刑は、早く行わなければなりません。イエス様を支える人もいたため、支持者たちが手を打つ前にイエス様を処刑する必要があったと思います。それで、イエス様のほうが予定された犯罪人たちの処刑に入るようになったこともあります。二番目に、イエス様と一緒に十字架につけられた人々は、政治犯だったかもしれません。今日の福音書第38節によると、イエス様の十字架には「ユダヤ人の王」という札が付いていたということが分かります。これはイエス様の罪名として、イエス様がどんな罪で死刑にされたのかを示すものです。当時のローマは、自分の帝国の中で他の政治的な動きを座視せず、厳しく罰しました。だから、大祭司長を中心とした宗教指導者たちは、イエス様を政治犯として告発し、イエス様は他の政治犯と一緒に十字架につけられたのだということです。最後には、イエス様が犯罪人と共に処刑されたのは、イエス様の死を辱めるためだということです。マタイによる福音書27章38節には、イエス様の右と左につけられた人々が強盗だったと書かれています。イエス様を強盗と一緒に処刑したのは、人々がイエス様の死を特別に受け入れないようにするためだと思います。強盗とイエス様の罪は違うものではないということを人々に強調するために、イエス様は強盗と一緒に十字架につけられたのだと思います。他にも、イエス様が犯罪人と一緒に十字架につけられたことには、いくつかの解釈と主張があります。しかし、これらすべての意図は一つでした。イエス様が十字架につけられたのは、自分の犯罪によるものだったということです。これが当時の権力を握っている者たちの主張でした。

34節でイエス様はこう言われます。「そのとき、イエスは言われた。『父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。』」このイエス様の祈りは、当時、イエス様の死に関わることがどれほど悪かったかを示していることだと思います。イエス様が十字架につけられながら、神様に嘆願するほど、イエス様の死に関連するすべてのことは悪かったのです。大祭司長を中心として宗教指導者たちの計略、騒動が起こるのを防ぐために正しくない判決を下したヘロデとピラト、イエス様の死を見つめていた民たち、イエス様の服を分け合っただけで冒涇した兵士たち、あざ笑った議員たち、さらには十字架と一緒につけられた犯罪人もイエス様をののしります。もしこの世の罪を一箇所に集めることができるなら、私は、その場がイエス様の十字架の場だと思います。正義や真実は一つもあらわれず、すべての偽りと悪と罪だけが現れているからです。彼らはただ自分だけのために、自分の平安と利益のために目を閉じました。そしてイエス様に向かってこう言います。「もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい(35節)。」「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ(37節)。」「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ(39節)。」彼らは果たして救いや奇跡が起きることを願ったのでしょうか。そうではないでしょう。彼らはただイエス様を侮辱し、あざ笑ったのです。なぜ彼らはこのようにしたのでしょうか。自分たちは正しいと自らが信じるためではないのでしょうか。自分の罪を隠すために、むしろより強くイエス様をあざ笑い、けなしたかもしれません。正義や真実はおろか、イエス様に向けた慈しみや哀れみもなかったのです。

本当に悲劇ですね。イエス様の十字架の場で、私たちは人間の何の良いものを見つけることはできません。人間の利己心と罪と悪事だけが明らかになっています。その場にいた人々の中にも、イエス様の奇跡を経験した人がいたでしょう。イエス様の教えを聞いて、イエス様をメシアとして、又は正しい人として思った人もいたでしょう。しかし、みんなが沈黙し、イエス様を侮辱しました。もし私たちがその場にいたとしたらどうなったと思いますか。私はあまり変わらなかったと思います。イエス様の十字架の場は、人間のすべての悪が現れた場所、人間には何の善いものもないことを示している場だと思います。そしてイエス様は、その十字架に私たちのためにつけられました。人間のすべての罪が現れた十字架に自らがつけられたのです。

それで十字架は、私たちに相反する二つの姿を見せてくれると思います。悲劇と神の摂理、絶望と希望です。私たちにあって、十字架の出来事は悲劇であり、絶望です。人間の立場では、すべての悪が現れた場であり、人間には何の善いものもないことを示す場です。しかし、神様はその場を通してご自分の恵みを示されました。人間は最悪で、善い者ではありませんが、イエス様はそのような人間のために十字架につけられたということです。そしてこれが摂理、神様の御心だということです。だから私たちは、救いを得ることができるのです。私たちが良いことを行い、正しいから救いを得るのではなく、イエス様が私たちのために十字架につけられたので、それが神様の御心だったので、救われるのです。ルターは、これがすべての教会の教えの中で最も喜ぶものだと言いました。この教えが私たちに大きな慰めを与えるからであり、計り知れない神様の愛と慈しみを教えてくれるからです。

今日の福音書42節で、イエス様と一緒に十字架につけられた犯罪人の一人は、イエス様にこう言います。「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください。」彼にイエス様が何と答えられますか。「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる。」この言葉が今日、永遠の王キリスト主日に教会に集まった皆様に与えられる御言葉だと思います。私たちの王は、民族主義的な王でも、戦争を起こす王でもありません。私たちの王は、みんなのために罪を背負って、十字架につけられた王です。この王による喜びと福音が皆様と共にありますように。悲劇に隠されている神様の摂理が私たちに救いに導いてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン